

文：高瀬徹朗 *Takase Tetsuro*

本誌放送アナリスト・ワンセグウォッチャー

ワンセグほかチェック

日テレ「デジテク2011」に見る、最新データ放送コンテンツ

日テレデータ放送の取り組み

震災と節電の影響などで開催が見送られていた日本テレビ「デジテク2011」が10月、ようやく開催された。内容的には震災絡みが数多く加わるなど例年どおりの充実度。その中から、複数紹介された最新データ放送コンテンツなどについて取り上げる。

まずは、今年2～3月に放送されたスペシャルドラマ『桜からの手紙』と連携したスマートフォンアプリ「TRN(手乗り)でAKB」。ドラマ放映中、テレビ画面に表示されるARマーカ―をカメラ撮影することで、スマホ側にAKBメンバーのオフショット映像が表示されるというサービスだ。

つまりは特定スマホアプリの起動キーにテレビ画面の一部を用いているということで、今後、スマホ普及が進めばますます増加が予想される。こういうのがワンセグ(例えば非サイマルとかデータ放送)で展開されないことが残念、という意味でも印象に残った取り組みだ。

次に『金曜ロードショー』で展開されたデータ放送「新世紀エヴァンゲリオンシーンガイド」。場面に合わせて用語解説やクイズが表示され、クイズに正解すると「シンクロ率」が上がっていくというサービスだ。

同作品を知らない人には何のことかわからない説明だと思う(書いている本人もわからない)が、要は作品ファンがより番組を楽しめる取り組みである、らしい。このデータ放送への視聴者アクセスが過去歴代3位だったことが、優れたサービスであったことの証明としておこう。

「地元天気スーパー」は、朝の情報番組放送中、事前の郵便番号登録によって特定地域の天気予報をオーバーレイ表示させる仕組み。展示では「スーパー表示」と紹介されていることから推察できるとおり、データ放送でありながら実質強制表示である。これこそ真のポイントと言えなくもないが、取りあえず現状、開始当初以上の発展は見られていないようだ。

非連動は各種コンテンツ拡充

日テレ非連動のトップページは、いつの間にかいろいろ拡充されていたようだ。そのひとつが、8月にリニューアルスタートした「地デジで健康生活2」。ジョギングやウォーキングといった自身の行動記録をつけられるほか、健康に関する情報やミニゲームなども楽しめる。

ミニゲームについては、その取り組み自体よりも操作性の良さに驚いた。リモコン上下左右および決定キー入力に対する操作対象のレスポンスは、データ放送初期を知る者にとってある種の感慨を覚える出来栄え。個人的に利用したいかどうかは別として、技術・システムの進化を感じさせる。

また、この「健康生活」を含め通信接続を前提としたコンテンツが複数投入されていることも評価できる。「日テレ駅探」が当初から一定の評価を集めていたこともあるだろうが、いまだに新作通信連携コンテンツを投入している姿勢が素晴らしい。

震災後対応として非連動トップに加えられた「でんき情報」は、電力使用率などの最新情報を示すコンテンツ。こうした情報

「CEATEC JAPAN」で発表された東芝「REGZAサーバ」には正直、度肝を抜かれた。地上波全チャンネルを2週間分、しかもHDで丸々録画できる家庭用端末がこれほど早く登場しようとは。これまでも「テレビの視聴スタイルを変える」と銘打った製品は数多く存在したが、これほどリアルにその言葉を響かせたのは本製品が初めてではなかろうか、とすら思う。まあ、現時点で20万円は出せませんが、それではチェック、スタート。



「桜からの手紙」ARマーカ―。放送局任意ではなく、データ放送で視聴者任意に表示できればなお良かった、かも



「新世紀エヴァンゲリオン」シンクロ率。作品をよく知る知人によれば「面白い取り組み」とのこと

を参考に節電に努めている一般家庭がどれほどあるのかは不明だが、この夏、事前に警戒されたほど話題にならなかったのは放送局の努力も多少はあった、と信じたい。

震災時のデータ放送についても紹介されていたが、発生当時、この連載でも取り上げたとおり個人的には不満の残る内容。情報が直前で二転三転した計画停電はともかく、震災当日の「帰宅難民」対策情報が提示されなかったことが大きなマイナスと感じた。次回への糧としてほしい。

「デジテク」全体として見ると、やはりデータ放送への取り組みが弱まっている現状を感じざるを得ない。いまだ積極的に取り組んでいる印象の日テレですらこのくらい。本格デジタル放送時代を迎え、データ放送に復権の機会はあるのか。不安を覚えつつも、更なる発展に期待したい。 